

「ほっとけない 世界のまずしさ」キャンペーン
緊急プレスリリース No. 4 2005年9月15日



小泉首相、国連ワールド・サミットで演説：「言葉から行動へ」 世界の貧困への取り組みに向けた日本と先進国の責任が明確に

9月15日、小泉首相はニューヨークで開催中の「2005 国連ワールド・サミット」に出席し、6時過ぎに演説を行いました。

■「言葉から行動へ」：世界の貧困対策への日本の責任を明示した小泉首相演説

今回のサミットの注目点は、世界の貧困の解消に向けて国際社会がどう動くかということです。小泉首相はこの点について、明確な表明を行いました。「言葉から行動へ」と題された演説の中で、小泉首相はまず、「極端な貧困と闘っている人々、自助を求める人々に手を差し伸べる、優しさのある国連（a caring United Nations）が必要」と述べました。そして、日本を含めた先進国が「拡充された約束を実行に移す」（implementing of the enhanced commitments）ことで、よりよい世界の基礎ができると述べ、日本を含む先進国が途上国に対する援助などの約束を果たすことが重要であると明確に表明しました。

私たちは、解散・総選挙にあたって小泉首相に「国連サミットに出席し、『日本は貧困との闘いに責任を果たす』と言ってください」とアピールしてきました。首相官邸には、小泉首相にサミット参加をお願いする数多くのメールが届きました。小泉首相のサミット出席、そして「言葉から行動へ」というメッセージは、私たちのキャンペーンの努力の成果が表れたものと言えます。

小泉首相のメッセージは、基本的に、世界の市民社会が国際社会のリーダーに対して発しているメッセージと同じものです。「約束をすることよりも、それを実行することにこそ意味がある」。世界、特に途上国の市民社会は、貧困との闘いの歴史の中で、つねにこのメッセージを発し続けてきました。小泉首相が、G8のリーダーの一人として、その名とその責任において、市民社会と同じメッセージを国連の場で発した勇氣に、私たちは敬意を表したいと思います。

■貧困解消に向けた日本の誓約：小泉首相は指導力の発揮を！

ここで、今年、首相が行った数々の「約束」を振り返ってみましょう。まず、首相は本年になって、まず4月に、アフリカへの援助を3年間で2倍とし、その主要部分を贈与とすることを表明。続いて6月に、世界エイズ・結核・マラリア対策基金（世界基金）に対して当面5億ドルを支出することと、「ミレニアム開発目標」のうち保健に関する目標の達成のために5年間で50億ドルを支出することを宣言。さらに7月のG8サミットでは、今後5年間でODAを合計実質100億ドル増額することを表明しました。

しかし、これらにはいずれも不明瞭な点があります。まず、アフリカ支援の倍増ですが、日本のアフリカ援助はここ数年急速に減少しており、これを2倍にしても、95年当時の援助額とほぼ同額になるに過ぎません。世界基金への支出は、本来、2006～7年の2年間の予算にあてられるべきものですが、首相はこれについて、2年間という年限をはっきりと区切るのではなく「当面」という曖昧な言い方に終始しました。ODAの100億ドル増額については、すでに以前から合意されていた対イラク債務40億ドルの帳消しをこの中に含めるなど、帳簿上の操作がその大半を占め、実際に途上国の開発に向けて新規に拠出する資金はそれほど多くないのではないかという予測が、新聞報道などで行われています。

首相は今回の演説で、「日本を含む先進国が約束を果たすことが必要」と明言しました。上に見たように、日本が本年行った途上国支援の「約束」には様々な「抜け道」が用意されています。今日の演説における自分の言葉を裏切らず、世界の期待に真に応えようとするなら、首相はこうした「抜け道」に頼ることなく、真に世界の貧困解消のために、今年行った約束を誠実に果たしていくことが必要です。「言葉から行動へ」：私たちに問われているのは、それを真に実践できるかどうかなのです。

- 本件プレスリリースに関する問い合わせは「ほっとけない 世界のまずしさ」キャンペーン ニューヨーク派遣員の稲場雅紀まで：メール masaki.inaba@gmail.com, 携帯 347-200-9451
- GCAP への問い合わせは：Ciala Gaynor 646-331-6982, Nicky Wimple 858-205-8721 Kate Norgrove 858-205-8734 まで